

第91回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録	
日 時	令和4年8月1日(月) 14時00分～16時00分
開催場所	横浜市役所18階会議室 みなと1・2・3
出席委員	工藤委員長、有賀委員、今市委員、大久保委員、河合委員
欠席委員	なし
法 人	小山内理事長、相原学長、後藤附属病院長、中條副学長、遠藤副学長 ほか
事務局	高倉大学担当理事、小松大学調整課担当係長、中村大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開(傍聴者 なし)
議 題	1 第90回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録(案)について 2 令和3年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価について 3 第4期中期目標について 4 法人におけるコンプライアンス推進のための取組について 5 その他
決定事項	

議 事	<p>主要な発言は、以下のとおり。 (○：委員発言、△：法人・事務局発言)</p> <p>※議題1について<資料1> 特に意見なし</p> <p>※議題2について<資料2> (事務局より資料2の説明)</p> <p>○ 順番に確認していきます。ローマ数字のIは下の方の総括ですから、まずI-1教育に関する取組からですが、法人の自己評価はAですが、委員の評価はSが一人、あとはAが4つ。4人がAですからトータルはAということによろしいですか。とりあえずAということにしましょう。</p> <p>2の研究です。これも同じくSが1人、Aが4人なので、委員会はAということによろしいですか。1と2がAなので全体のIはAということになります。よろしいでしょうか。IIの地域貢献ですが、Sが2人、Aが4人です。多数決のAによろしいですか。とりあえずAということにします。</p> <p>次のIIIですが、これは皆さんAですから、委員会もAということによろしいでしょうか。</p> <p>次はIV-1医療分野・医療提供等に関する取組は、Sが2人、Aが3人。ここもAによろしいでしょうか。</p> <p>2は医療人材、これは全員Aですから、委員会もAということにしたいと思います。</p> <p>3の地域医療の取組は、Sが2、Aが3ですが、多数決でAということになります。</p> <p>4の先進的医療・研究、これは5人がAですからAでよいですね。</p> <p>5の医療安全・病院経営は5人ともAなのでAでよいですね。</p> <p>そうすると、1から5までAですから、IV全体の評価はAということによろしいですね。</p> <p>続いて、Vの法人経営で、1の業務運営の改善の取組は5人ともAですからAで良いですね。</p> <p>2の財務内容の改善は、Sが2人、Aが3人でAとなっていますが、Aということによろしいですか。</p> <p>VIの自己点検は、皆さんがAですからAになりますね。</p> <p>去年はどうでしょうか。Sがいくつかあったのではないですか。去年と比べて、去年はSがあるのに、今年はSをつけるほどではない。順調にやっつけらるが、Sをつけるほどではないというような評価で良いのかなというのがちょっと気になるのですが。</p> <p>○ Sが1個もないというのも寂しいですね。</p>
-----	---

- 去年に比べて見栄えがしなくて良いのか。
- 例えばIVの1 医療分野・医療提供でSを付けていてコメントをいただいている方によればコロナへの対応に関することが書いてあって、そういう観点では、3次救急医療とコロナの高度医療を両立させと書いてありますので、S、S、A、S、Aだから委員会案はSで良いのではないですかね。
- Sをつけるとしたらここで、あまり専門的なことはわからないので、どの程度のSかどうかわかりかねたのでAにさせていただいたというところです。
- IV-1のS、A、A、S、Aの2番目のAをSに、5番目のAをSということで、ありがとうございます。
では、IV-1の委員会案の所はSでよろしいですか。他にないですか。地域医療は。
- Sの方のコメントが無いので、シンクロできるかどうかわかりませんが、上から2番目をSにすれば、S、S、A、S、Aなので、委員会案はSで如何でしょうか。全部Aというのはなんだか寂しいので。
- △ 先ほどの昨年度の評価ですが、大項目では1つAがついています。それはIの大学の教育研究です。小項目の教育研究、医療分野医療提供に関する取組IV-1がS。V-2財務内容の改善にSがついています。小項目ではSが4つありましたが、大項目はIの教育研究がSという評価でした。
- △ 補足させていただきます。お手元にお配りしておりますファイルの中に、赤いインデックスの4つ目に評価結果がございまして、一番上が通年のみなし評価なので、その次のインデックスを見ていただきますと、令和2年度のダイジェストがありますので、そちらをご覧くださいと詳細が分かります。
- 去年は、教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組の大項目がS、あと、小項目で医療分野、医療提供に等に関する取組、財務内容の取組がSですね。今年と比べた時に財務内容が全セグメントでコロナ禍で大変な中、頑張ったなということで去年と同様で良いような気がしますがいかがでしょうか。V-2財務内容の所ですが、Sが2人。Aが3人ですが、いかがでしょうか。
- ファンドレイザーとかご苦労なさっているので、Sにします。
- では、去年と同様にV-2はSにして、V-1はAのままですから、トータルでA。法人の経営については去年と同じですね。
それから病院のところですが、小項目の1と3は、先ほどご賛同があってSにさせていただきましたが、全体5つの項目の中の2つですから、もう1個上がればSになるのですが、特にいいですか。去年も大項目ではAのままなのですけれど。
- 5つのうち3つがAなので、もう1個SにすればSが増えるというのですが、全部の項目について重要度が同等、つまり同じ重さかどうかという話です。このSとこのSが3つのAより重いというのであれば総合判定はSで良いのではないのでしょうか。あと残りはオールAじゃないですか。
- IVのところですが、前年度、前々年度はコロナが発現し、それに対応しながらさまざま従来からの目標をやってこられたので、小項目で言うと、医療人材の育成、先進的医療研究は、もちろん継続的にやっていかなければならないということはわかるのですが、実際に現場に行ってみなければわからない、それでも努力されているのはわかるのですが、この1年2年はコロナへの対応なのでそのような感じで受け止めております。財務内容はちょっと前に比べると改善されて、こういった環境下なので当然Sで良いと思います。地

味とは言わないけれど地域貢献を着実に進めてきておられますが、私は前からかなりやっておられる部分でもあるので、ここは私はSをつけております。ご検討いただければと思います。

○ 私も地域貢献をお願いしようと思っていたのですが、大学全体として地域貢献を努力しておられて、いろいろな取り組みをやられている。私が感心したのは大学の授業を市民の方に開放した点です。なかなか難しく、いろいろなハードルがあると思いますので、そういう意味で私はSをつけました。地域貢献については、去年はAですが、去年より少し評価を上げて差し上げて良いのではないかと考えております。

○ 病院のところから、大項目S, A, S, A, Aで評価書のところは、Sが2人、Aが3人ですけれど、地域貢献の分を含め、病院が大変な中で貢献というのは差し上げたいなというところで、ローマ数字のIVをSにするというのはご賛同いただけますか。

○ 私は控え目に医療のところはAを多くつけさせていただいたのですが、心の中では、この難しい状況の中、良くやっていたのでSという風に考えております。どうしようかと思ったときに、評価基準のSを付ける基準は、年度計画を上回って達成しているとか、それを見た時に年度計画と比べてどうなのかとなった時に、Sを付けるほどなのかと控えめにさせていただいたことが多いのですが、非常に難しい中、良くやられているということではSよろしいと思います。

○ 皆様ご賛同いただければ、IVをSにして小項目の1と3もSに直す。地域貢献をSにしたらどうかということですが、私がつけた評価のここをSにしたいと思います。去年はIの教育研究がSでしたが、今年は残念ながら良くやっているけれど、地域貢献のS、病院のSで大項目のSは二つで、今後の奮起を期待しながら、ということよろしいですか。

これを皆さん方からコメントを作ってくださいとお願いしており、事務局の方でうまくつぎはぎをして、全体の委員会としての評価案を次回見てもらうんですね。

△ 次回文章を作らせていただきますので、細かい部分を確認いただきまして、ご意見等いただければと思います。

○ 本日はここのランクを作成していただいて、報告書のレポートは次回ご覧いただくと思います。

皆さん方がコメントしていただいた他に、あるいはコメントしていただいたことでも良いのですが、ここは報告書の中に残してほしいとか、ちょっと入れ忘れたけどこういうことがあるよということがありましたら、コメント頂きたいのですが。

○ 先ほど委員からもお話がありましたけれど、計画通り進めればAということだと思います。しかし、どうしても数値目標というものがあり、計画よりもうまく進んでいるか、進んでいないかということはずいぶん考えて今回は評価をつけました。そういう意味ではいろいろな取り組みをされていて、いろいろな委員会や組織等企画を立てられていらっしゃるの、その効果測定をどうするのかということが、これから結構問題になるかと思っています。数値目標を立てられないものもあるかもしれませんが、いわゆるKPIというのをどこに持ってくるのかということもお考えいただいて、今後の計画に反映していただければありがたいなと思います。

○ 私から一言だけ申し上げたいのですが、総合的な評価コメントで、今回いろいろなご努力で大学が黒字経営になったことを称えながら、この結果をもとに、「市からの投入資金の削減など関係者の士気を殺ぐことなどないように強く願っている。市民が誇れる大学として、横浜市大が一層輝けるような発展をするためには、大学関係者の意識の高揚とともに、持続的な公費支援の充実が必要とされていると考えるからである。」このようにわざわざ書きましたのは、国立大学の経験を考えた時に、国立大学法人が少しお金が余った時に、財務省が騒いで財政審議会などに、これだけ国立大学、金が余っているから交付金を減らし

たいというキャンペーンを張ったことがありました。財務省側の誤解もあったのですが、会計上の仕組みで架空の余金が出るような見かけになったということもあるし、各大学の努力によって節約して、他の財源に使いたいということもあって黒字になった。そういう経験をしたものなので、今回はここ数年大学がせっかく努力して黒字になった中で、それをもとにとりあげるとするのは困る、というのを気にしたんですね。事務局から、次の議題の新しい中期目標を作るにあたって、市から大学への注文事項、大学から市への回答案というペーパーを送ってくださいまして、それを見ておやおやと思ったのは、今後数年間にわたって、経費を10%減らすべしと、そういう経営努力をしろというご指示、多分財政当局から言われたからでしょうけれど、それは言うてはいけない事なんじゃないかと思う。我々委員会は市の財政状況を勘案しながらも、市大がより発展するために審議して、変なところは指摘し、努力が足りないと思うところは尻を叩きながら、大学の発展のために物申す委員会ではないかと思うので、ここは本委員会の報告案として、こういう趣旨のことはぜひ書いてほしいなと私個人は思うのですけれど、皆様のご賛同が得られるかどうか。いかがでしょうか。

- 去年コロナが大変だったというのは全くその通りなのですが、労災病院全体を見てみると、普段は赤字の病院が黒字になっている例がある。そういうことを考えると、私自身は今の意見には賛成です。なぜそうかという、V-2財務内容の改善に関する取組について、これは財務内容なので、他のことを考えてとやかく言うのではなく、そのまま大学はこういうことで黒字となったと書いた。これを書いたからどうなるものでもないと思うのは、同じコロナ絡みで、私が書いたのはCOVID-19並びにその疑い症例への診療とところなのですが、ここにはお金のことは一切書いていない。病院としての機能を一生懸命やった。全体としてA評価だった。責務を全うした。コロナ絡みでけっこうお金が入ったのは間違いないので、財務内容としては、そこそこ困らない程度になったのは間違いないですが、それをもって、先々もそういうようになると安直に考えるのは全く無理なのですよね。今回はたまたまそういうようなことは起こったけれども、来年、再来年、コロナがらみで入ってきたお金がそのまま入ってくるかという話には全然なりませんから、今回だけ見てどうのこうのという話はやめた方が良くと思うので、委員長が言うように、どう書くかは別にしても、この計画のもとに金を削れみたいな話は、全然ディメンションの違う話です。ですから削れという主張があれば、それは勘弁してくれと書いた方が良くはないかと思います。何となく、大学の先生方も恐らくはお金のことでがんばらなくちゃいけないと漠然と思っている感じがするので、お金のことを考えるなどは言わないけれど、もっと大事なことは世の中にはあると思います。
- 一つコメントすれば、国立大学法人に対して、10年余りにわたって、年々5%、運営費交付金を減らしたんですね。10年も続けば相当なものになります。他方で日本の学者の研究論文が少ないとか、世界のランキングが下がったとか文句を言われる。さすがに大学人があちこちで反乱を起こしまして、国からどんどん金を減らされて、つまらない報告書やら毎年の年度評価報告書とかを出さなければいけないとか、雑用ばかりで研究の時間をどんどん減らされている。それで研究しろとは何事だというんですね。これだけ減らされてというデータを示しながら、国大の主な学長があちこちで言うようになった。それで、去年くらいから、人への投資として、皆同じように縮減するのではなくて、出すところには出すというメリハリが国の場合も地方の場合も必要なもので、横浜市としても国の轍を踏まないように、財政当局は厳しいことを言うと思うんです。だけど市大を存続させるのであれば、あるいは市民の誇りと思えるような大学にしてほしいと思うのであれば、そこは事務局が砦となって頑張ってくださいと必要があると思うんです。国立大学には44%しか国費から出してない。市大の場合は14%しか市から出してないにもかかわらず、さらに10%減らせとか、今後お荷物だからやめろというのはちょっと意識が問われるのではないかと思います。そこはぜひ良くお考えいただきたいと思います。
- 私も交付金が減らされる可能性があると同いまして、そういうことになると、将来の教育や研究の意識をそぐことになるかと懸念しています。市の方に伺いたいのは、削減していくということが決まったのは最近の決算の状況を踏まえてなのか、それに関係なく以前からそういう方向性になっていたことなのか。あと、さきほどご意見があったようにメッセ

ージを評価に反映させるかということ、市の方も文章に困るかもしれないが、私も専門家ということで意見を求められているということでしたら、何らかの見解として評価の中に反映していただいてもよろしいのかなと思います。

△ 後ほど中期目標のところでも議論になると思いますが、運営交付金について事前に状況をお話しさせていただいたのですが、令和3年度、令和2年度に決算が良かったらということではなく、これは横浜市全体の財政の問題から検討しているものです。市が借りた市債、それを返済するために減債基金というところに将来の財源として積み立てているが、その積み立てているものを毎年取り崩しながら予算編成をしている状況です。これは市の中でも、将来の市民の負担で現在の施策をやっている状況が常態化しており問題なのではないかという議論があります。それだけでなく市全体の財政構造は法人税が少ない、さらに法人税のほとんどが臨海部の重化学工業から出ているという状況なので、今後の脱炭素の中ではなかなか税収が伸びない。また、人口が減ってくるので、メインとなっている個人市民税も減ってくる。一方で高齢化していくので社会保障費が出ていくという状況です。このため昨年からの市の財政ビジョンというものを作って、今年の5月の市会でご審議いただき、議決をいただいています。減債基金のような臨時資金を取り崩しながら予算編成をしていくということはいくつか、市の財政状況を皆で共有して市の土台にしながら今後の施策をしていきたいと思いますという議論になっています。そういった中で、市大の運営交付金も一般財源を使っているトップ100の中のかかなり上位の方にいる状況ですので、そこに手を付けなくて他の事業で全部削減するというのはなかなか難しいだろうということ、市大の方にも市の財政状況を共有していただいて、しかし全部やめてしまえということではなくて、選択と集中をしながら、必要な研究、教育、医療等を選択しながらやっていただけないかという議論の中でさせていただいているものです。決して今お金が余っているから、そこから取ろうということではないのでご理解いただければと思います。

○ 市の財政事情が悪いにしても、これからの交付金をどうするかというのは、黒字で余っているということとは別の話ですけれど、でも余裕があるということにはなりますよね。別の話ですけれど、財政が厳しいからみんな10%減らしましょうねというのは、ちょっと待ちなさいよと、お国でもメリハリをつけながらやっていますよ。もともと大学というのは営利企業体ではないので、大学を市立大学としてどうしたいのか、どんどんスリム化して、大学は医者とか教員とか人が中心ですから、嫌になれば逃げてしまうんですね。もし市大をどんどんシュリンクさせて、人が逃げてしまって元に戻らない。せっかくこれだけ歴史のある大学、このまま尻すばみにさせるのか。儲けようとするなら大学をやめて、専門学校とか実務的な教育で、金が貰えるような事業体を作れば良いですけれど、まさかそこまでやらないでしょう。もし大学としてやっていくのであれば、覚悟しながら、それなりに考えていただかないと困るのではないですかね。というのが我々の気持ちじゃないかと思います。それはまた中期目標の所で議論したいと思います。

○ 色々な意見が出ていますけれど、行政側の言い分も、内容はそれなりに把握しているつもりなのでわからないではないです。横浜市のいわば大学法人であれば例外的なものはないので、一般財源の中でどれほどどういうふうになんとか努力してもらおうかですね。6年後に今の10%ならば、大学が自分たちでどうやって行こうかという時には、努力して一生懸命メリハリをつけてやるということが経営として当然だろうと思う。行政側の方から何でもかんでも頂け頂けみたいなやり方だと困る、前にも申し上げましたが、教育と医療は今後の社会を考えるとメリハリをつけた対応をしていただきたい。ただし、一方では民間もそうですが、いろいろなことをやればやるほど、そこには必ず見直しと改善と効率化は常に出てくることなので、それを一生懸命やっていくといくのは当然大学の方にもあることだと思います。6年後の10%というのがどの程度の影響をもたらすのはわかりませんが、今までのことを一生懸命やってきた学校ですから、結果として行政が答えないと、行政も味をしめてしまうとそこをはっきりしないといけないと思う。さきほどの委員の表現ですが、年度評価でどうこうということではないと思います。これだけ我々が言っていますから、しっかりと行政の方にも理解していただきたいし、今後、中期計画の議論をしていく中で、行政、議会の中からはこういう話が出るようであれば、我々もしっかりと期の途中でも言わなければいけないテーマだと思います。そういう意味では、ここで

書くのはどうかなという感じがしないでもないですね。むしろその問題だけがクローズアップされてやりとりしても、大学側も含めて今の段階では、決して両方プラスにはならないのではないかという気がします。

- 全体を縫い合わせてみて、次回ペーパーとして案を出していただき、その時またご議論しましょう。とりあえず、本日はランキングの確定と意見交換にとどめさせていただきます。

では、議事の3について、新しい中期目標のあり方について資料3をご説明いただけますか。

※議題3について<資料3>

(法人より資料3の説明)

- ありがとうございます。これは本日に至るまで、各委員に個別に意見照会やインタビューをされましたよね。これは各委員の意見は反映されたものですか。

△ 今回、中期目標の素案を9月に向けて作っていきこうと思っていますが、正式な場面でご提示させていただくのは今回が初めてです。前回は骨子のようなものは出させていただいていますので、柱建てみたいなのは前回の委員会でもお話させていただいています。事前に皆様にはご説明させていただいています。その時点の案は特に反映しているわけではなくて、今回素案ということで初めて出させていただくものです。

- 皆様方、お気づきの点がありましたらお願いします。

- 素案(案)の自己点検及び評価の最後のところにあるように、これを踏まえた法人が策定した

ここで中期目標を議論するということは、横浜市が作るにあたって私たちの意見が生きるということですよ。大きく教育、研究、医療とありますが、教育の方の(4)、(5)、(6)、(7)は、一人一人の教育というよりは、全体としてこうやっていくという話ですね。(1)、(2)、(3)が一人一人の教育ということになると、(1)横浜を担う人材の育成、(2)リカレント教育の実施強化、おそらくこれも対象が一人一人の学生さんということになるのでしょうか。(3)地域医療を担うというのですが、高度な知識・技術を備えた、医師・看護師等、あとは一人一人かどうかわからないのですが、地域医療全体の質の向上に貢献すると書いてあるので、これは一人一人ではないのでしょうか。例えば、ある部門や医療チームだとかは人々が複数で働いている。(1)、(2)、(3)といったように、一人一人についてそうだという話は、非常に大事な話だからそれはそれでいいのですが、これからは恐らく企業も病院も市役所も一人一人のパワーが大事なことはそれなりにわかるのですけれど、 $1+1=3$ になるような、複雑系のシステム、一つ一つの要素の総和が全体の説明をするのではない、要するに $1+1=3$ になるみたいに、要素がお互いに影響しながら全体としてうまくやってくとか、そういうシステム論がある。複雑適用系とか言われますが。そういった観点から言うと組織的な展開を十二分に意識したような教育というんですかね、そういうふうなことの書きっぷりがあっても良いのではないかと思います。

2つ目は、組織として全体の価値を高めていくような、全体を俯瞰できるような、例えば救命救急センターにおける診療の展開においてスタッフの一人一人はもちろん大事なのですが、 $1+1=3$ になるような形で全体として運営しないとイケない話になる。そういうような組織的な全体を俯瞰できるような教育していくという話が大事なのではないか。例えば臨床研修医の教育に公衆衛生がある。公衆衛生は一人でできる問題ではないので、一丁目一番地的な言い方をすると、医療の(3)に感染症がありますよね。今回の感染症も国の災害対策基本法に感染症は入っていない。つまり、パンデミックは災害じゃないという位置づけになっている。しかし、恐らく市大病院、労災病院、東京の大学病院もそうですが、一応「災害対応という観点」でやっている。そういう意味で地域医療機関との機能分担の推進のところで、医師会等とありますが、この等のところに介護施設を入れるのかという話が前回でしたか、ありましたよね。大学病院なので介護施設を直接やっていないという話がありましたけれど、直接やるかどうか別としても、医療と福祉と介護はシームレスで

ないといけないので、そういう意味で、介護施設を入れて、地域医療プランと機能分担という話になると思う。もし横浜市大病院が介護施設も含めて災害対応ということであれば、普段から前方連携、後方連携の延長線上で、大学病院としては中小病院に介護施設に教えるに行くことについて促してほしいとやるとすると、理屈の上では中期目標よりもプラスアルファで仕事をしたとなってしまう。そうすると、横浜市は余計なことをしたということになってしまうのですかね。どうもこれを読むと、災害対応という形でやらなければならないことについて横浜市大の2病院が全体を見るような立場だとすると、普通の病院と介護施設との連携と、横浜市という地域社会がある。この「大学附属の2病院、地域の医療と介護連携、地域社会」といった3層構造で考えると、真ん中の部分にもコミットしなければならないし、一番下にもコミットしなければならない。災害対応みたいな形を入れておかないと余計なことをしたみたいな話になってしまわないかと心配になった。

3つ目は、横浜市の人口が減る、税収が減るという状況についてです。地域貢献のところに「地域貢献に全学をあげて取り組むことができるよう」と書いてありますが、地域貢献というのは、地域がさらに発展できるように人口や税収が減ることが無いように頑張るような取り組みを考えたとすれば、それはここに入るのでしょうか。地域貢献に全学を挙げて取り組むという話その意味では少し分かりにくい。確かにコロナは国難だけど、コロナよりもっと国難なのは人口減少だよという話がありますよね。人口の減少に対して横浜市がどういうふうなことで頑張ればよいのかということや大学が研究するという話もしやったら、それが余計なことになるのかよくわからないので、その部分はどのように考えればよいのかということが気になりました。

○ 皆さんからいろいろ聞きましょうか。今回の意見を受けてリライトするんですね。

△ 今のことに一問一答でお答えすることはなかなか難しいところもありますけれど、教育の素案のところについて、自分は十分に理解できていないかもしれませんので、今日のご発言を踏まえて確認していきたいと思えます。介護施設の関係は、前回もご議論いただきまして、地域包括システムについて記載させていただきました。感染症と災害の対応についてはいろいろご意見あると思うのですが、公衆衛生について、庁内でも大学に期待しても良いのではないかとということもあります。ただ教育の内容や何を具体的にやるのかということ、大学の判断の部分もあると思えますので、そこまで細かく書かない形にさせていただいております。いろいろな折に触れ、福祉と医療の連携はいろいろな場面でかわりがあると思いましたので書かせていただいております。個々の施設に入っていらっしゃる方をどう受け入れるかという話から、感染症が発生した時にどう支援をすることができるかとか、どういう関わりができるか、いろいろなものがあるかと思えます。

地域貢献について、中身を細かく書くのはいかがかと思っており、総論として抽象的に書かせていただいております。これは大学と意見交換をしているところで、これまでも市立大学はいろいろな面で地域貢献をしていただいております。所管の部署と先生方と熱心でやっていただいておりますが、横浜全体の大きな課題、例えば高齢者が増えてその方のADL、QOLをどうやって確保していくか、横浜市としてどういう政策をしていったら良いのか、あるいは、京浜臨海部の産業構造をどう展開するのか等、大きな組織的な課題について横浜市と大学と一緒に検討するということを考えていきたいと私共からお話させていただいております。市立大学だけでなく、横浜市もいろいろなことをしていかなければならないですが、大学と地域貢献どんなことができるのか、今後、具体的な内容について一緒に議論していきたいと思っております。

○ 第1回目欠席した時に説明があったかもしれませんが、この表は横浜市が文章を書いて、大学に出して、大学がこれに反応して、それぞれに大学がどういう施策をするか答えるということなのですか。そうすると、例えば(1)(2)(3)について納得しがたいということがあった時、例えば将来の横浜を担う人材と言ったときに、これだったら、将来の日本を担う人材としても良いのではないかなと思ってしまいます。横浜市と限定しないとどうなるのかといった議論が公立大学だし当然あると思うのですが、実際には大学側といろいろ議論しながら、双方で修正があるのか、これはこれで決めたら出すのか、その辺のやり取りが分からないのですが。

- △ 制度の関係が法律で決められていますので、それをまず説明させていただきます。
- 中期目標につきましては、地方独立行政法人法の第25条に、設立団体の長は独立行政法人が達成すべき業務運営に関する目標を策定して独立行政法人に指示するとともにこれを公表しなければならないとなっています。具体的にどのような内容を定めるかについては、業務の質の向上に関する項目、業務運営の改善及び効率化に関する項目、財務内容の改善に関する項目、その他業務運営に関する需要項目について記載した上で公表しなさいというようになっております。それを作成するにあたっては、設立団体の長があらかじめ法人評価委員会の委員の意見を聞くとともに、議会の議決を経てこれを示すという形になっております。これを受けた大学について、中期目標を踏まえ中期計画を作成する形になっております。制度としてはそういう形になっております。
- 制度的に大学からの意見を勘案してこれを作るというのではなく、これを作って大学がこれに従ってやって下さいという制度ですね。わかりました。
- △ 私の説明が足りないところがありました。地方独立行政法人の中には公立大学法人の特例がありまして、設立団体の長が目標を策定するときには、あらかじめ公立大学法人の意見を聴取し、これに配慮しなければならないということになっておりますので、実務的にも法律的にも意見等調整しながら策定させていただきます。
- 今の話を踏まえて、現中期計画もそうですし、これからやろうとしている中期計画もそうですが、横浜市側と大学側と、例えば教育では(1)～(7)まであるのですが、行政が指示する内容でどこが…非常にわかりにくいですね。現場の方がどう受け止めているかわかりませんが、僕の感覚では中期目標で経営側、すなわち行政側が言う骨格を示すのが、法人経営、インフラがらみとか、地域貢献とかというのが骨格だと思うんですよ。いつも違和感を感じているのは、教育のところの(1)将来の横浜を担うというところで、これは国を担うで良いのではないかと。結果として横浜市にも強くアピールする。そういった人材、社会人を、病院の現場を持っていますから、地域医療を担う先生方、医療スタッフを教育する、医学部以外の教職員をしっかりと育て確保する。せいぜいそのあたりかと思うんですね。(4)の効果の検証とか、(5)環境の整備とか、(7)市内企業や地域社会との連携・対話とかは、教育で語られるのではなく、地域貢献だったり、法人経営の中で語られる骨格なのではない気がするんですよ。ですから、学校側はもっとも得意な、普段やっていらっしゃることと言えば教育、研究、医療の現場の維持だったりですよ。そういったところの細かい施策を大学側が自主的に発案し、それを大きな方向性にあっているかどうか行政側が判断して問題が無ければそれを認めればいい話であって、むしろ大学側が比較的法人の経営、地域への様々な貢献については、むしろ横浜市側が具体的なアイデアを出して、実践されたらどうですかとリードするといった役割分担があるべきだと思う。くりがどうも分かりにくくしているといった感じがする。実際の教育現場にいらっしゃる学長、副学長、先生の方が分かっているわけだし、とんでもないことをやるわけではないので、それは大きな理念に向かって間違っていない教育の在り方の継続なら、それはそれで認めるべきだと思うんですね。むしろ横浜市に求めるのは、行政なだけに経営だったり、地域貢献だったり、医療での地域貢献も含めて、そういった骨格にした方が分かりやすいですか。
- 法人経営のところの(4)で、人事異動・人事評価制度の見直しや、大学組織の運営を支える職員の人材育成の取組を強化する、というところですが、ここにあるということは、これを対象としている人材育成というのは職員の方だというニュアンスを受ける。当然研究者の人事評価はあってしかるべしで、含まれているのだと思うのですが、その辺の研究者の育成とかメンタリングとか評価指標とかモチベーションを上げるような記述が研究のところにあった方が良いのではないかと思います。
- (5)働き方改革の推進で、DXによる大学事務システムの効率化や多様な働き方ということなのですが、もちろんDXによる大学事務システムの効率化そのものなのか、それを行うことで事務方の事務作業が減って、空いた時間や余剰人員が出るというところを目標として、次のステップとして、余剰人員が学生のサポートをするとかで回すということが目的なのだと思うんですね。DXによる大学事務システムの効率化というところで止まっ

てしまうと、そのまま時間が止まっておしまいというニュアンスを受けてしまうので、より有効な人材資源の配分とか、そういうことを少し入れていただくといいのかなと思いました。

- 中期目標があって、中期計画があるのですが、交付金というお金を出すにあたっての中期目標というのは大学について中期目標ですから、大学の基本は教育、研究、診療ですね。そこで期待されているのは、しっかりした教育をやって、学生に付加価値を付けて、そういう学生が自信をもって巣立ち、社会に出て活躍をする人材を育てるとというのが基本ですよ。研究というのは、それぞれの分野で先人たちが築き上げたり発見した知見に、横浜のみならず日本や世界、人類のため、新たな知見の発見と積み上げにどれだけ貢献するかというのが研究ですね。診療というのは、難しい病気、市大病院に行けば最後の砦としてちゃんときちんと診療して下さる。そのための病院の設備、知見の蓄積もしっかりやっただ下さるといふ安心安全な診療という基本がまずあって上で、さらに加えて横浜市立大学として、こういうこともやってくれ、ああいうこともやってくれということであれば、全体の落ち着きがいいと思うのですが、今回の中期目標案全体を見るとそのような基本というものが無い。これだと例えば大学が定員割れになって、あまり学生確保がうまくいっていない。そうすると目標の中には、ちゃんと定員の通り人を取れという項目が無いので計画の立てようがない。評価のしようも無いですね。卒業に至らない中途退学者がいっぱい出たとか、ニートが多くて活躍する人が少ない、それでいいのかなというのもありうる。それでも金を出すのかとかチェックしようがないというのが気になりますね。それぞれの項目で、基本でこういうのが必要だねということをもつて、それに付加してこういうこともやってねという項目建てにした方が良くはないかという気がしました。

さらに具体的に気になったことを言いますと、「教育」(1)「将来の横浜を担う人材の育成」というのは品が無い。横浜市立だから横浜で活躍しなければならないということはないわけで、教育や研究には県境も国境もない。場合によっては、世界に飛び出していくかもしれない、世界から人が来るかもしれない。言っているわけでしょう留学生を取りましよう。彼らが横浜で勤めてくれてもいいですが、外国から来る方は、母国のために尽くしたいと思って来る人もいるでしょうから、そういう人を来ないで下さいというのも変でしょう。全体に、何か横浜市の行政の立場から大学を見ている気がするんですけど。むしろ市民目線で表現した方がもっとスマートになるのではないかな。市のためになれ、では無く、市民が誇れる大学になってほしいとかね。横浜市大の先生がノーベル賞をもらったら皆うれしいでしょう。横浜市に関係することでノーベル賞もらったのではなくても、市大からピカピカの研究の評価を上げているということは、横浜市民の誇りですよ。横浜市のためになってくれというのは、目標として矮小化する話になるのではないかなという気がします。データとしても、交付金が全体の14%というがこれは全部が市内からの税金ではないでしょう。神奈川県からの補助金もあるでしょうし、地方交付税として全国からのお金もあるではないですか。交付金を出しているからと言って、横浜市はそんなに大きな顔をできない。むしろ、全国に開け、外国に開くような、もうちょっと懐の広いところを見せた方が全体の項目がスマートではないかという気がします。そういう意味で、(1)のところのタイトルと、末尾の「横浜を担う人材の育成」というところも再検討した方がいいと思います。また(1)とか(3)とかは、言い回しを再考の上、「地域貢献」の方の項に入れ方が良くはないでしょうか。(4)は新設・再編学部の効果のレビューをしてくれと言うのですが、新設・再編でない、旧来の組織はほったらかしで良いのでしょうか。新しく作ったところのレビューをしてねと注文をつけるのは良いのですが、それも含めて全体の組織を見直しながら不断に改善をとというのがスマートではないかなと思います。

(7)で、企業や地域社会との対話の機会を設けてカリキュラムの検討・見直しとありますが、地方の声と言っても一部の声を受けて、それをカリキュラムで見直せと言うのは言い過ぎかもしれませんね。横浜を担う人材の育成という言い方と同じようにいかなものかという気がします。

「研究」の所の(2)の末尾の書き方で、新たなイノベーションの創出に取り組むとありますが、今まで取り組んでいないんですかね。表現の仕方によって、今までやっていないからこれをやれということはあるのでしょうか。今までやりながらもっとやってくれと、より一層ということであればそういう表現で。例えば、一層取り組んでくれとか、創出に寄与するように努めてくれとか、表現によってニュアンスが違ってきますね。批判的に響

くのか、励ましながらもっとやってくれと鼓舞するののかというのが出てくるか思います。(4)の臨床研究のところは、ここではなくて、「病院」のところか「地域貢献」のところのような気がします。

「医療」の(2)で、これも先ほどと同じことですが、医療と福祉の連携に積極的に取り組むで、今までやっていないのかなという気がするので、よりこれまで以上にということなのか、積極的に取り組むとともにとやるか、医師会等との対話を図りということも、対話を今までしていないのかとなりますので、対話等をこれまで以上に進める他とか表現の仕方を工夫した方が良いかなという気がします。

「地域貢献」ですけれど、(1)の「市民により支えられた大学」とあるが、本当に市民に支えられているんですかね。市立だから、市民に支えられているとわざわざ言うのか、横浜市立であることは確かですから、支えられているかどうかは別として、横浜市立の大学であるということを感じながら、適宜横浜の為になることをやってもらうのは良いのですけれど、それを義務化する、教職員の責務と位置づけるとか、「横浜に貢献する大学」とわざわざかぎ括弧をしてまで目立たせるということはいかがなものかという気がしました。(3)の政策検討能力の向上に協力するほか、市職員との連携による政策の検討に取り組む、これは何を言いたいのかよくわからないのですけれど、市が何か政策について検討をしたいときに一緒に入ってやってくれと言うのならそうすればいいのですけれど、市がやらないで、大学でそういう政策をやってくれというのであれば、市がさぼっている、市がやるべきことじゃないのという気になるので、そこは調整しながら、学問の府県である大学とシンクタンクとは違いますから、豊富な人材はいるのでしょうから協力を仰ぐというのは良いでしょうけど、何を頼みたいのかをはっきりした方が良いのかなと思います。

「グローバル展開」のところの(1)は「アジア各国のトップ大学」とわざわざアジアに限定する意味があるのか。必要なアカデミックコンソーシアムを作るのに、アジアもまちまちですから、かえって一緒にやるのが難しい国が多いですけれど、欧米等にも目を広げながら可能なものを行った方がよろしいのかなという気がします。(2)留学生ですが、外国人留学生の日本で就業・定着に向けとありますけれど、これは希望者には大事なことですけれど、日本で就業したがついていてはなくて、母国で国づくりをやりたいという人もいでしょうから、そういう人にも目を向けた感じの表現をした方がスマートなような気がします。

いろいろ勝手なことを言いすぎたかもしれませんが、そこはご勘弁いただいて、気に入ったことを申し上げました。

- いろいろご意見いただきましてありがとうございます。私どもとしましては、9月の市会に素案という形でまずご説明をさせていただいて、その後市民の意見募集をやらせていただいて、そういったご意見を踏まえながら最終的に市会の議決で提示する形になりますが、議案として12月の市会に出そうと思っています。素案を作る前に評価委員の皆様のご意見を聞いてと考えておりますので、今日いただいたご意見、特に委員長からいろいろご意見をいただきまして、少し行政が上から目線で物を言いすぎているのではないかなというようなご意見かなと受け止めましたので、そこところは謙虚な気持ちになって、大学の方と今までやってきているもの、ずっと継続して書いているものがたくさんありますので、そういったことを配慮しながら素案の修正を19日にお示しさせていただきたいと思っています。

私ども、横浜の社会構造や産業構造が大きく変わる中で、市立大学がその期待を受けて、地域の知の拠点なので、何らか支えになっていただいて、新しいものを提示していただくように期待しているということを今回中心に書かせていただいていますので、その辺がうまく伝わるように記述をしたいと思っています。

- ありがとうございます。他の委員の先生方ご意見はございますか。
- 先ほど委員長がおっしゃいました、研究のところで、医学部をお持ちなので産学連携やオープンイノベーションやオープンイノベーションの母体となる組織があるかもしれませんが、かなり大変だと思いますし、基礎研究がやや軽んじられている雰囲気を感じました。大学の教員がこれを見て受け入れられるのかなと疑問に思ったんですね。だから大学の教員とどういふふう>Contactをとっているのかなと思ったのですけれど、皆さん研究者

	<p>で基本的な研究をお持ちだと思うので、その辺も汲んでいただくというか、大学の立場などをご相談しながらお進めいただきたいと思いました。市大の先生はたいへん理解が深いのだなという印象です。</p> <p>△ 研究の内容については、大学の方でご検討いただいていることだと思いますが、先ほどからお話させていただいている通り、横浜市として設置している大学なので、何らかの成果が市民の方に還元できるような形を求めていきたい。特に産業、社会構造が大きく変化しているので、そういったところに大学の活動が結び付くようにコーディネートしていきたいし、大学の研究者の方もかなりそこに近い部分をやっていると思うので、意識しながら研究、教育活動をしていただけると、市民からも感謝される大学になりますので、この機会に大学と議論をさせていただければと思っております。</p> <p>○ それではまた検討してまいりたいと思います。 次は議事４、法人の方から説明をお願いします。</p> <p>△ 本日のご議論大変参考になりました。ありがとうございました。２点ほど報告があるのですが、その前にお礼ということで、本日の業務実績の評価のご議論の中で、コロナ対策の対応についてきちんと評価して下さいましたことで、医療従事者ならびに教職員が報われると思います。また、病院の経営努力についてもコロナの取組以外に、研究しつつ業務内容の見直しを行った結果の成果をして評価を上げていただいたこと、ありがとうございます。今後とも努力してまいります。また中期計画につきましては、横浜市が基本的に何を大学に期待をしていただいているのかということをしっかり踏まえて、応えていくような計画にしていきたいと思っております。</p> <p>※議題４について<資料４> (法人より資料４に基づき説明をした)</p> <p>○ ただ今の説明にご意見はございますか。 無ければ本日はこれで終わりますが、この機会に何かご発言は。</p> <p>○ #7119 という仕事で出向ということでしたから、確かにコンプライアンスの話を一生懸命やることについて重要とは思いますが。しかし、救急医の仲間内で私が理解する範囲で言うなら、この逮捕された医師に固有の問題点があったと言わざるを得ないかと思えます。その意味では本件をここでこれ以上深掘りするには及ばないと考えます。</p> <p>○ 他にございませんか。無ければ事務局の方から次回の連絡をお願いします。</p> <p>※事務局から次回日程の説明</p> <p>終了</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配付資料]</p> <p>資料１ 第 90 回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録 (案)</p> <p>資料２ 令和 3 年度計画における評価一覧</p> <p>資料３ 横浜市の策定する「中期目標」素案 (案) について</p> <p>資料４－１ 法人におけるコンプライアンス推進のための取組について (報告)</p> <p>資料４－２ 記者発表資料</p>